

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	安部直樹 嶋内麻佐子 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また薄茶点前（後半）の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法身につけることを目的とする。フィールドワークを通して、伝統文化である茶道を通じた地域振興に関する問題意識をもつことができる。</p>							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶道に使用する道具、茶事におけるもてなしについて説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	フィールドワークに参加し、伝統文化を通して地域振興に関する問題意識を持つことができる。禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				レポート 課題・レポート	10% 10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	15%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（道具を洗い、運び出すところまで）」を実践できる。				実技確認	60%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>実技確認の成績を 60%とし、点前がスムーズに流れているかを確認する。茶碗の扱い方、茶筌の洗い方、茶巾の扱い方、道具の仕舞い方について、流儀の形を理解しているかなどから評価する。授業態度については 15%とし、水屋仕事を通しての道具の正しい取り扱い方や稽古への積極性を評価する。毎回の授業内容をポートフォリオを用いて整理し、習熟度の向上に繋げる。フィールドワークのレポートを 10%とし、ポートフォリオを利用して行う。なお、評価の詳細については、レポートに記載する。小テストを 5%とし、第 4 回目と 7 回目に実施する。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>茶道実技の薄茶点前（後半）を学ぶ。点前については、茶道文化研究所作成の動画も使いながら、道具を洗い、道具を運び出すところまでの点前を完成させることを目標とする。また、水屋仕事を通して道具の大切さについて学ぶ。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400 円の諸経費が必要である。フィールドワークとしては、島瀬美術センターで 11 月に開催される三川内焼に関する展示会に参加し、レポートを提出する。また、佐世保市や平戸市などで開催される茶会についても別途案内する。参加費が別途必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011 年) 76～80 頁  参考書：嶋内 麻佐子構成 DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色 G P 関連事業(2007 年)  指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007 年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶室での貴重品の取り扱いは自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。</li> <li>・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。</li> <li>・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。</li> </ul>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前(前半)復習① ・水屋仕事	薄茶点前(前半)の復習。 水屋の使い方・道具の扱い方について学ぶ。	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
2	・薄茶点前(前半)復習② ・水屋仕事	薄茶点前(前半)の復習。 水屋の使い方・道具の扱い方について学ぶ。	教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
3	・薄茶点前(前半)復習③ ・濃茶の飲み方 ・水屋仕事	薄茶点前(前半)の復習。 濃茶の飲み方について学ぶ。 水屋の使い方・道具の扱い方について学ぶ。	教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
4	・薄茶点前(後半)見本 ・小テスト	薄茶点前(後半)の見本を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 76~80 を読み、 予習・復習をする。
5	・薄茶点前(後半)稽古①	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76~80 を読み、 予習・復習をする。
6	・薄茶点前(後半)稽古②	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76~80 を読み、 予習・復習をする。
7	・茶の歴史について ・小テスト ・薄茶点前(後半)稽古③	茶の歴史について学ぶ。	教科書 pp. 15~33 を読み、 予習・復習をする。
8	・薄茶点前(後半)稽古④	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的 な稽古をし、点前の流れを 整理する。
9	・薄茶点前(後半)稽古⑤	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的 な稽古をし、点前の正しい 型を身につける。
10	・薄茶点前(後半)稽古⑥	薄茶点前(後半)の完成を目指す。	薄茶点前(後半)の完成を 目指し、自主的な稽古をす る。
11	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前(後半)の完成を 目指す。
12	・点前確認振り返り ・薄茶点前総復習	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。 薄茶点前総復習を行う。	点前確認を振り返り、自己 評価する。 教科書 pp. 70~80 読み総 復習をする。
13	・フィールドワークとして、 佐世保市・平戸市で開催され る茶会に参加	伝統文化である茶道を通じた地域振興への取り組み。 佐世保市で開催される三川内焼に関する展示会、佐世 保市・平戸市で開催される茶会の何れかに参加する。 さらに実践を通して客の心得を理解する。	茶会参加に向けて客作法 を確認する。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜につい て学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古 来、松浦家の風習について理解を深める。	祝儀袋のマナーを調べて おく。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄(松 芳)先生の遺徳をしのび、献茶式を実施する。	教科書 pp. 7~12 を読み、 予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べ ておく。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (2020 年度秋季入学生) (AB102)			担当教員	安部 直樹 嶋内 麻佐子 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後(春)期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、日本の文化を理解する力を養う。また薄茶点前の習得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前(道具を洗い、運び出すところまで)」を実践できる。				実技確認	60%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>実技確認の成績を 60% とし、点前の流れがスムーズにできているか、道具を正しく扱っているかを確認する。茶碗の扱い方、茶筌洗い、茶巾扱い、道具の仕舞い方について、流儀の形を理解しているかなどから評価する。授業態度については 30% とし、稽古への積極性を評価する。課題・レポートについては 10% とし、毎回の授業内容をポートフォリオを用いて整理し、習熟度の向上に繋げる。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>点前については、薄茶点前後半の流れを学び、道具を洗い、運び出すところまでの点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400 円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化 I B を履修するためには、茶道文化 I A の単位を取得することが必須である。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011 年)</p> <p>参考書：嶋内 麻佐子構成 DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学 G P 関連事業(2014 年)</p> <p>指定図書：筒井 紘一著『知って得する茶道のいろは』淡交社(2014 年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶室での貴重品の取り扱いが自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。</li> <li>・茶に関する内容(道具・菓子)などに関心を持つこと。</li> <li>・1 人で点前の稽古が出来るよう、事前・事後の学習を行うこと。</li> <li>・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。</li> </ul>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前(前半)復習①	薄茶点前(前半)の復習。	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前(前半)復習②	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・薄茶点前(前半)復習③	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
4	・薄茶点前(前半)復習④	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前(前半)復習⑤	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前(後半)見本	薄茶点前(後半)の見本を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前(後半)稽古①	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
8	・薄茶点前(後半)稽古②	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
9	・薄茶点前(後半)稽古③	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
10	・薄茶点前(後半)稽古④	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
11	・薄茶点前(後半)稽古⑤	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
12	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前(後半)の完成を目指し、自主的な稽古をする。
13	・点前確認振り返り	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
14	・薄茶点前復習①	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
15	・薄茶点前復習②	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。